

大震災記憶伝承の場は

新たな施設整備の考えはない



議員 清貴 関
(政和会)

問 東日本大震災追悼式はどのように続けるか。国に対し継続開催を要望するのか。

佐藤町長 今後の追悼式は遺族、被災された方々の声を聞き検討したい。政府主催の追悼式は県、近隣市町村の動向により対応していく。

問 津波伝承施設を整備し、支援してくれた方々に被災当時を伝える場としてはどうか。

町長 新たな伝承施設を整備する考えはない。「まちなか交流センター」に充実した展示の準備を進めている。

山田高校の存続支援は

継続して支援する

問 震災後、山田の高校生は郷土を思う気持ちがより強くなり、防災教育、地域貢献、地域活性化において活躍している。県の公立高校の後期

再編計画以降も存続させるために魅力ある学校としなければと思う。そのために関係団体等と協働しなければと考えるが、高校存続に向けての

町づくりにおける山田魚市場の位置付けは

漁業を支える拠点

問 山田魚市場の水揚げの減少は存亡の危機であり漁業の町として魚市場をどのような位置付けで町づくりを進めるか。

町長 前浜の水産物を通じて漁業者と消費者をつなぐ役割を担っており、本町の漁業を支える拠点として捉えている。

山田がJTB交流創造賞を受賞し、観光客が増えることが予想される。直売所、浜焼きの場として利用されていた「とっと」が廃止される。これから水産物販売、浜焼きと訪れる観光客に必要な施設だと思ふ。

問 早い段階で決算状況を予測し、関係機関と連携し、対応しては。

甲斐谷副町長 決算結果を把握してから。

町長 仮設施設であり令和2年度に助成制度が終了することから解体する。「かき小屋」で継続できるか観光協会で検討中。

問 マリン・ツーリズム

を把握してから。

町の支援策は。佐々木教育長 教育課程では学びの充実が図られるよう支援し、部活動は東北大会以上への旅費等の支援を継続する。また「山田高校を支える会」が行う取り組みも引き続き応援する。

問 小学校新校舎の建設場所は何年後をめどに決めるか。

教育長 令和2年度の決定に努める。

問 候補地は何力所か。

副町長 公表できる段階ではない。



勉学に、地域貢献に、人材育成の学び舎の山田高校

その他の質問

- ◆ 津波の潮位の表示は
- ◆ 新たな養殖種目の検討は
- ◆ 農家所得向上の作物は
- ◆ 中学校のグラウンド使用は